[392]

氏 名 (本籍) **中 川 昭** (大 阪 府)

学 位 の 種 類 博 士 (体育科学)

学位記番号 博 乙 第 2460 号

学位授与年月日 平成 21 年 10 月 31 日

学位授与の要件 学位規則第4条第2項該当

審 查 研 究 科 人間総合科学研究科

学 位 論 文 題 目 記述的ゲームパフォーマンス分析によるラグビーのキックオフプレーの重

要性と実践的有効性

筑波大学教授 博士 (心理学) 吉田 茂 主 査 副査 筑波大学教授 教育学博士 阿江通 良 筑波大学准教授 博士 (工学) 副査 髙 木 英 樹 副査 筑波大学准教授 博士 (工学) 浅 井 武 筑波大学教授 博士 (心身障害学) 中田英雄

# 論文の内容の要旨

ラグビーにおいてキックオフプレーは、一般にはこれまであまり重視されて来ず、試合でもステレオタイプ化された手続きが繰り返される典型的状況の1つになっていると考えられた。しかし、ラグビーゲームの構造的特性を理論的に考察するとゲームで重要な意味を持つプレーであることが導かれ、実際にキックオフプレーの重要性を印象づける試合があることも事実であった。また、世界の著名なコーチの中には以前からキックオフプレーの重要性を説くコーチも存在した。したがって、ラグビーのキックオフプレーについては様々な観点から研究する必要性と意義があると考えられるが、研究はこれまでほとんど行われていない状況にあることが認められた。そこで、本研究では世界のトップレベルのラグビーゲームを対象にして、キックオフプレーの重要性を明らかにし、実戦での有効性向上に役立つ知見を提供することを目的とした。

### (研究課題 1) キックオフプレーのゲームでの位置づけの検討

キックオフプレーに焦点を当てながらラグビーのゲーム構造を分析して、キックオフプレーのゲームでの 位置づけについて、以下の結論が得られた。

- 1. キックオフプレーの様相は 1991 年~ 2003 年の間に生起頻度、キックの種類、キック地域、リフトプレーの使用、ボール獲得に関して変化があり、いずれも同時期に実施されたルール変更が大きく影響している。しかし一方で、キックオフのプレーは 2002 年のルール変更で形式的にほぼ完成したと考えられ、今後キックオフに関する重大なルール変更によってプレーの様相が大きく変化することは予測できない。
- 2. キックオフプレーは、生起頻度に関する結果からゲームでの意義が決して小さくないことを意味していると考えられ、キック時のボール獲得及びボール奪回の達成率から改善の余地が大きくあると考えられる。また、キックを浅く蹴ってボールの獲得を直接ねらうショートキックオフプレーとボールの獲得を最初から放棄してキックを深く蹴りこむロングキックオフプレーの2つの異なる戦術的意図を持つプレーが全体ではほぼ二分して存在する。
- 3. ショートキックオフプレーではボール獲得成功とボール奪回成功が、ロングキックオフプレーではボー

ル奪回成功がいずれもキックオフからの連続地域支配時間及び連続地域支配している間の総得点獲得率 と積極的に関連しており、このこととキックオフが行われる試合局面の考察から、キックオフプレーは 試合の勝敗と関連する重要な時間帯における地域支配の時間と得点獲得の可能性を左右するセットプレーとして位置づけられる。

### (研究課題 2) キックオフプレーの成功を高める要因の検討

キック側の立場からキックオフプレーのプロセスを分析し、キック側のプレー成功を意味するボール獲得 成功とボール奪回成功を高める要因について、以下の結論が得られた。

- 1. ショートキックオフプレーでキック側のボール獲得成功を高めるための重要な要因は、キックオフされたボールに空中でコンテストをしてレシーブ側より先にボールに仕掛けることと、キックオフプレーで発生したルーズボールにレシーブ側より先に仕掛けることであり、前者の空中でのキックオフボールへの仕掛けに成功するためにレシーブ側のリフトプレー使用がない状況でキック側がコンテストすることに高い効果がある。
- 2. ショートキックオフプレーでは、もしキックオフのボールを獲得できなかった場合にはボールを捕ったレシーブ側プレーヤーを即座に倒してラックポイントにすることが、その後のボール奪回成功を高めるために重要な要因となり、逆の視点から見ると、即座にボールキャリアーを倒せず、レシーブ側にモールを形成されドライブされること及び直接ラン攻撃されることがその後のボール奪回成功率を低くする要因となる。
- 3. ロングキックオフプレーでは、キックオフ後のラックポイントからレシーブ側がキック攻撃をするという前提で、キックオフのボールを捕ったレシーブ側プレーヤーにプレッシャーをかけ時間的余裕を与えないことと、その後でレシーブ側プレーヤーを倒して 22m ライン以降のできるだけ深い位置でラックポイントにすることがキック側のボール奪回成功を高めるための重要な要因となる。

#### (研究課題3) キックオフプレーにおける戦術オプションの有効性の検討

従来から一般的なキックオフプレーと見なされてきた戦術オプション(FW 片サイド・FW 側 SKO)の限界を実証し、先の研究から示唆された戦術的課題の解決を可能にする、より有効性の高い戦術オプションについて、以下の結論が得られた。

- 1. 従来から一般的なキックオフプレーと見なされている FW 片サイド・FW 側 SKO は、他の戦術オプションと比べてキックオフプレーにおけるボール獲得率が低く、ボール奪回成功の阻害要因になるモール形成率は高いことが認められ、ボール獲得、ボール奪回の両面からキックオフプレーとして大きな限界がある。
- 2. FW 片サイド布陣から BK 側へショートキックを蹴るキックオフプレーと、1 人の FW ジャンパーが BK 側に位置する布陣からのスプリットキックオフのプレーは、ボール獲得の見地から FW 片サイド・FW 側 SKO に比べて有効性が高い戦術オプションである。
- 3. FW 片サイド布陣から中央方向へショートキックを蹴るキックオフプレーと FW が両サイドに半々に別れる布陣からのスプリットキックオフのプレーは、FW 片サイド・FW 側 SKO に比べて、有効コンテスト状況生起の見地から潜在的な有効性があるに止まる。
- 4. FW 片サイド布陣から FW 側へロングキックを蹴るキックオフプレーは、ラインアウトでのボール獲得とラインアウトからの攻撃で高いパフォーマンスが発揮できる場合には相手陣の攻撃地域で有効な攻撃起点を増加させることになり、この点で FW 片サイド・FW 側 SKO よりも有効性が高い戦術オプションである。

結論として、近年の世界トップレベルのラグビーゲームについて記述的ゲームパフォーマンス分析を行った結果、キックオフプレーのゲームでの重要性、およびキックオフプレーの実戦での有効性を高めるための

要因とその具体策としての戦術オプションが明らかになった。

# 審査の結果の要旨

本論文は、ラグビーゲームのキックオフプレーについて、1) その重要性を実証的に明らかにし、2) その成功を高める要因を検討し、3) 有効性の高い戦術オプションを提示することを目的としたものである。

ワールドカップ水準の試合について記述的ゲームパフォーマンス分析を行った結果、1) キックオフプレーは前後半の最初や得失点後などの重要局面における地域支配時間と得点獲得を左右する重要なものであること、2) ショートキックオフプレーでは、空中コンテストおよびルーズボールにおいてボールを先取する、ロングキックオフプレーでは時間的余裕を与えないことと深い位置でラックポイントにするなど、成功要因を抽出し、3) バックス側へのショートキックオフやバックス側に1人のFW ジャンパーを配したスプリットキックオフなどが、戦術的に有効性が高いことを明らかにした。これらを踏まえ、新しい戦術オプションとして、全方向型キックオフを提案した。

本論文は、世界的にラグビーの戦術研究が少ない現状に大きな指針を与える意義をもち、また分析・考察も十分な内容となっており、高い評価に値するものである。今後、戦術の実践的検証、方法の汎用化、分析の省力化、図式化など結果の提示法の工夫等が期待される。

よって、著者は博士(体育科学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。